

= 熱中症の対策・職場点検を早急に実施しよう =

対策の基本は「熱中症を一件も出さない」です！

十分な熱中症・暑さ対策の実施を

7月に入り、各地で気温が30℃を超す日が出ています。昨年大きな被害を出した熱中症の心配が、今年も強まっています。すでに犠牲者も出ています。

熱中症は高温に長くさらされて、身体の水分や塩分のバランスが崩れて起こる症状です。意識を失い、最悪の場合は死にいたる恐ろしいものです。

今年には福島原発の事故で「電力不足」が予想されるため、冷房を控える動きも強まっています。電力の浪費を防ぐ対策は必要ですが、最悪の場合死にいたる熱中症予防のための対策は十分にされなければなりません。

過酷な職場環境で作業する造船の職場では、なおさら十分な予防対策が求められます。

携帯型熱中症計を配付し、

熱中症を一件も出さない取り組みを

センサーが10分おきに気温と湿度を計測して、熱中症の危険をライトとブザーで知らせる携帯型熱中症計が販売されています。船内の狭隘場所や曝露甲板などでの作業者が、即座にその状況を把握するには有効な計器です。価格も高いものではありません。熱中症の発病を起こさない取り組みとして全員に配付しましょう。

次のことは今すぐ出来ることです

- ☆作業場所に誰でもすぐに見られる温湿度計を設置する
- ☆作業場所で気温が30℃を超えたら作業を中止し暑さ対策をとること
- ☆気温が30℃以上にならないように、大型クーラーやサンネットを十分に準備し、設置は作業者にまかせるのではなく、安全衛生管理者を中心にプロジェクトチームを作り計画的に取り組むこと
- ☆作業場所に冷房設備の整った休憩場所（プレハブ小屋など）を設け、横になることのできる広さと、着替えなどの保管スペースを確保すること
- ☆スポーツドリンクや麦茶などを十分に用意すること
- ☆デッキに散水して直射日光を遮断し、鉄板を冷やす対策をとること
- ☆熱中症による休業は公傷扱いにする
- ☆「熱中症」対策の各種資料が、最も必要な現場作業者に十分にいきわたるようにすること

魅力ある造船産業に・・・造船所全体の抜本的な環境改善を

2013年から2015年に予想される造船危機の克服のためにも、魅力ある造船産業をめざす必要があります。炎天下での作業を当然とするのではなく、全天候型のドックの建造で、職場環境を大きく改善する必要があります。そうしてこそ十分な猛暑対策もでき、より良い環境の中でこそ、良い仕事ができ、経営改善につながります。

2011年7月

日本共産党石川島委員会 造船支部